

《2019 年 12 月（通算 280 回）月例会報告》

それぞれのラグビーワールドカップ 2019

ー思い出話とこれからの話ー

【日 時】2019 年 12 月 16 日（月）18：30（ボチボチ集合）～19：00（乾杯）～22：00（中締め）
※最後は 23：30 ごろまで

【会 場】（一社）文京ラグビースクール事務所
文京区白山 1-33-24 齋藤ビル 2F

【テーマ】それぞれのラグビーワールドカップ 2019ー思い出話とこれからの話

【参加者（会員）13 名】

安藤裕一（（株）GMSS ヒューマンラボ）、今廣佳郎（（有）JLA ASIA）、岸卓巨（サロン 2002）、
小池靖（在さいたま市サッカースポーツ少年団指導者）、齋藤芳（桜丘中学高等学校（体育科））、
斉藤宣彰（（有）JLA ASIA）、白井久明（弁護士）、関秀忠（弁護士）、鄭舜圭（一般社団法人 Sport For
Smaile）、名方幸彦（NPO 法人文京教育トラスト事務局長）、中塚義実（筑波大学附属高校）、
平井悠登（明星大学）、守屋俊秀（世田谷区サッカー協会）

【参加者（未会員）7 名】

金岡天夢（JADA）、北澤仁（元新日鉄釜石ラグビー部長）、齋藤守弘（文京ラグビースクール）、
清水美咲（JADA）、山田研也（筑波大学附属高校）、渡部博幸（文京ラグビースクール）、守屋佐栄

<目 次>

- I. 趣旨と概要
- II. 当日の様子ー時程と内容
- III. 参加者からのコメント（投稿順）

I. 趣旨と概要

1. 月例会案内より（2019 年 11 月 10 日配信「サロン通信：2019 年 12 月号」より）

ちょっと早めですが、年内ラストの月例会兼忘年会案内を「サロン通信」としてお届けします。

今年のトピックは何と言っても「ラグビーワールドカップ 2019」です。そこで 12 月の月例会兼忘
年会では「それぞれのラグビーワールドカップ 2019」について、小ネタを持ち寄って盛り上がろうと
考えました。12 月 16 日（月）19：00 乾杯。文京ラグビースクール事務所での開催です（後述）。参加
者頭割りの会費制持ち込みパーティなので、参加の可否を 11 月中にご連絡ください。

《2019 年 12 月（通算 280 回）月例会兼忘年会》

【日 時】2019 年 12 月 16 日（月）18：30（アップ開始）～19：00（乾杯）～21：00（中締め）

【会 場】（一社）文京ラグビースクール事務所

文京区白山 1-33-24 齋藤ビル 2F（都営三田線白山駅下車すぐ。フレッシュバーガーがあるビルの 2F）

【演 者】参加された皆さん（事前にお申し出があった方にはプレゼンの時間を設けます）

【テーマ】それぞれのラグビーワールドカップ 2019—思い出話とこれからの話

【概要（NPO サロン理事長 中塚義実より）】

12 月は忘年会シーズン。通算 280 回となる月例会は、忘年会を兼ねた会費制持ち込みパーティです。

サロンの忘年会はこれまでもただ単に集まって飲むだけでなく、「お宝映像上映会」など「テーマ制のある飲み会」としてきました（ちと大げさ。ホンマはただの飲み会??）。

今年のテーマは、もちろんラグビーワールドカップです。サロン 2002 では、誘致が決まった 2009 年度に続き、今年度の公開シンポジウムで「ラグビーワールドカップを語ろう！」を取り上げました。月例会でも何度かラグビーネタを取り上げてきたのはご存じのとおりです。一方、文京ラグビースクールは地域に根差した活動を続け、日曜日の朝、筑波大学附属高校はラグビーボールを追いかける子どもたちと、温かく見守る大人の姿であふれかえっています。

今回は文京ラグビースクールの事務所をお借りして、「4 年に一度じゃない、一生に一度」の世界的イベントを振り返りつつこれからを大いに語る場といたします。

事前にお申し出いただければ写真や動画、配布資料等を用いての話題提供(プレゼンテーション)の時間も設けます。現地観戦やパブリックビューイング、スポーツバーでの観戦報告、ファンゾーン体験、ボランティアや運営スタッフとしての関わり、周囲の変貌など何でもかまいません。「それぞれのラグビーワールドカップ 2019」の小ネタをご紹介ください(中塚が取りまとめます。ご連絡ください)。

【参加費】申込人数に応じて設定します（3,000 円程度の予定）

【参加申込】サロン 2002 の HP (<https://www.salon2002.net>) からお申し込みください。

※大まかな人数を把握したいので 11 月末日までにお申し込みください。

※話題提供できる方は参加申込とは別に中塚 ynakatsuka2002@kza.biglobe.ne.jp までご連絡ください。

【報告書作成者】参加者（参加された方のコメントをまとめます）

2. 最終案内より（2019 年 12 月 11 日配信）

今年最後の月例会は 12 月 16 日（月）に忘年会を兼ねて行います。サロン 2002 の HP には 15 名の参加者名がありますが、文京ラグビースクール（RS）からの参加者が増えることを想定すると 20 名ほどになろうかと思います。当日の「ドタ参」もありますが、できるだけ事前にお申し込みください。

進行案は次のとおりです。今回は誰もが話題提供者です。スライド等を用いてプレゼンしたい方は事前に中塚までお申し出ください。

【進行案】

18：30 ボチボチ集合（来た人が準備をしながらおのおの始まっているイメージ）

19：00 乾杯 自己紹介&歓談

19：30 ごろ 持ち寄ったネタのお披露目会（飲み食いしながら）

プレゼン①中塚「私のラグビーワールドカップ 2019（仮題）」（15 分+α）

9/20 有楽町 PV、9/22 横浜、9/25 釜石などの実体験を、写真を用いて紹介します

プレゼン②齋藤「全会場を回った体験より（仮題）」（15 分+α）

文京 RS の齋藤校長は全会場で観戦されました。その体験を語っていただきます

プレゼン③文京 RS 関係者「ラグビーワールドカップ 2019 と文京 RS」（15 分+α）

期間中のイベント（PV など）や大会後のフェスティバルの様子など紹介

（台風の影響で河川敷グラウンドが使えなくなった各地 RS との連携など

プレゼン④もしあれば

ディスカッション「ワールドカップ 2019 をどうつなげるかー日本ラグビーのこれから」

（飲み食いしながら←ぐちゃぐちゃになりそう）

21：00 ごろ 閉会

Ⅱ. 当日の様子ー時程と内容

18:30すぎ ポチポチ集まってきたところで談笑

19:00 “定刻主義”を貫き乾杯。このときは名方、北澤、斉藤、守屋夫妻、中塚、小池の各氏。ラグビーネタをはさみながら簡単に自己紹介。しかしこれがなかなか終わらないしおもしろい。遅れて参加の方々も続々登場。みないろんな体験をされている。

20:00ごろ 自己紹介終了。ここでお寿司解禁！（別に厳禁だったわけではないが、なんとなく誰も手を付けていなかった）。ビールやワインや焼酎を飲みながら盛り上がる。

20:15ごろ プレゼン① 中塚義実

飲み食いしながら、ラグビーワールドカップの体験をスライドで振り返るコーナーに。

まずは中塚の体験。概ね次のとおり。たくさんの写真で紹介した。

- ・9/20（金） 開幕戦は有楽町のファンゾーン。
いよいよ始まるというムードで盛り上がる会場。いろいろな国の人たちが集まっており、がばがばビールを飲んでいる。前日のSSF講演会で一緒させていただいたSさん（ボランティア研修を担当）の隣の席が空いており、旧知のY氏とも合流し、3人で楽しんだ。テレビカメラが私たちのすぐ近くにあるのは知っていたが、自分が映っていたことは翌日の学校で生徒から聞いた。



有楽町ファンゾーン入口。世界中から集合！



ハイネケンをケース単位で買う外国人も



テレビクルーが近くにいた

- ・9/22（日） 12:30新横浜駅集合。アイルランドvsスコットランドの試合をサロンの茅野さんと観戦。同じ試合、嶋崎夫妻も笹原夫妻もチケットを持っているということで合流した。「どちらが勝つか」とともに「どちらのサポーターが新横浜を占拠するか」に注目していた。いずれも歴史と伝統を誇るフットボール大国。自分たちが出場していなくてもFIFAワールドカップ開催地に乗り込んでビールをたらふく飲んで明るく大騒ぎしている姿を各地でみている。しかし今回は時間の経過とともに、明ら

かに緑色が優勢。「ここはダブリンか!」。試合もその勢いのまま、アイルランドが圧倒した。



新横浜はアイルランド人に占拠された



スコットランドも負けてはいないが…



ビールをおごってもらった



ビールの売り子ありがたい

- ・9/25（水） 本校では水曜日が保体科教師の研修日。この日に行われる釜石の試合のチケットを公式サイトでゲットし、フィジーvsウルグアイの試合を観に行くことにした。9/24（火）の授業終了後、急いで現地へ向かう。新幹線で新花巻、そこからローカル線で花巻へ。この日の宿はBooking.comで予約した3,000円のゲストハウス。バスで小一時間の温泉を楽しみ、花巻駅前で飲み食いし、宿へ戻ってロビーで一緒になったおっさんと語り、床に就いた。翌朝は6時台の汽車で釜石へ向かう。

花巻から釜石までは約2時間。釜石駅ではボランティアが明るく出迎え。テレビクルーも来ている。日本代表のサッカーのユニフォームを着ている私の姿を見て、NHKのクルーが「そういうのもありですわね」と言っていたが映してはくれなかった。荷物を預けタクシーに乗り「鉄の博物館」へ。釜石の成り立ちを知る。釜石駅隣接のサンフィッシュ釜石2F「和の膳 みやかわ」で海鮮丼とビールを楽しみ、臨時列車で鶴住居へ。

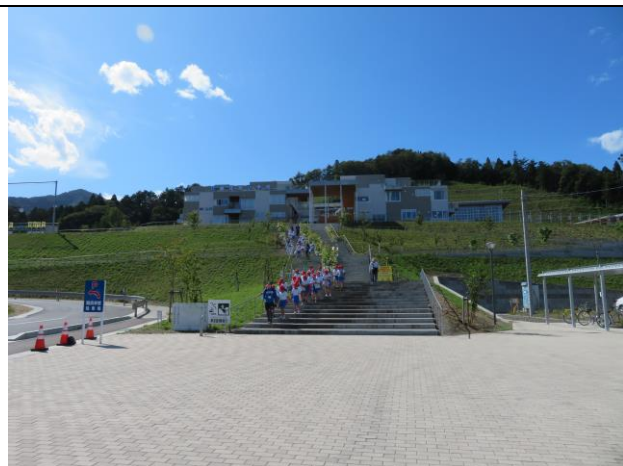
12:30ごろ着くと、そこは完全にワールドカップモードである。ちょうど小学生の一団が丘の上から降りてきた。津波に飲みこまれた小・中学校は裏山の方に移設され、そこからクラスごとにスタジアムに向かっているようだ。聞いてみると、釜石市の小・中学生は全校応援らしい。高校も休校でボランティアや応援に駆け付けているとのこと。すばらしいムードの中で試合が始まる。結果はご存じのとおり。今大会最初の“番狂わせ”と言えるゲームとなった。フィジーのキックミスが多すぎるのが敗因かと思うが、ウルグアイはよくやった。サッカーをやっているのとはちょっと異なるタイプの人がプレーし、サポートしている印象を受けた。とてもよい釜石の旅であった。



釜石駅では朝早くからボランティアが出迎え



鵜住居駅。ウルグアイやフィジーの人たちも



丘の上の小学校から児童が集団で降りてくる



競技場前にて。仮設スタンドで15,000人収容



満員のスタンド。両国歌



大喜びのウルグアイ人たち



外国人の間に小学生。一生の思い出になるね



最後まで笑顔で見送るボランティア

- 9/28（土） 16：15キックオフの日本vsアイルランドを再び有楽町のファンゾーンでみようと思い立ち、会場へ向かった。キックオフ30分ぐらい前に着いたら「いまからではご入場できないこともあります」とのアナウンス。かなり並んでいる。幸い試合開始ギリギリで入ることができたが、1Fはすでに満員。2Fへ行き、後方の柱の陰からの観戦となった。ハーフタイム、私のさらに後方から「先生！」と呼ぶ声が。振り返ってみると、筑波大附属高サッカー部OBのJ（123回）とO（124回）であった。
- 10/5の日本vsサモア、10/13の日本vsスコットランドは自宅でテレビ観戦。その後もテレビ観戦とするが、11/1の3位決定戦は三度目のファンゾーンへ。やはり込み込みであったが、ファンゾーンもいよいよラストということで名残惜しかった。11/2の決勝は自宅でテレビ観戦。



9/28のアイルランド戦はこんな感じでした



11/1の3位決定戦もファンゾーン2Fで



ファンゾーン3Fはイベントコーナー



大勢のボランティアがささえてくれました

20 : 30ごろ プレゼン② 齋藤守弘

すべての会場でラグビーワールドカップを観戦された齋藤氏の話は、観戦者目線と主催者目線が重なり合っていたいへん興味深いものであった。齋藤氏のラグビー愛が伝わってくる。補足資料として配布された全試合の観客数の資料は貴重である。

21 : 00ごろ プレゼン③ 山田研也

文京ラグビースクール（RS）のあゆみが、大会期間中に起きたことをまじえて紹介された。ラグビーワールドカップを機に会員数が激増していること、そのため運営面で追いつかなくなっていること、「誰もがゲームを楽しめる」ポリシーでここまで歩んできたが、ある大会に参加した際に「一日補欠で終わってしまった」子どもが出てしまったことがスクール内で大議論になったこと…。どの世界でも起こり得ることがここでも起きている。たいへん興味深かった。

21 : 20ごろ

自由に歓談。話題は、ワールドカップのことはもちろんだが、文京RSが直面する少年スポーツの話題も熱い。いろんな人との語らいが熱く展開されている。酒もうまい…。

21 : 45ごろ クロージング

まずは文京RSの齋藤守弘校長から、スクールの今後の展望も含めてコメントをいただいた。続いてドイツへのサッカー留学経験がある齋藤芳氏に、ドイツの少年スポーツの様子の紹介を含め、コメントをいただいた。齋藤氏は発言したくてたまらない感じだったのでちょうどよかった。この日の締めは安藤裕一氏。熊本で女子ハンドボールのワールドカップが開かれ、決勝戦を終えて熊本から帰京したばかりの安藤氏には、ラグビーとともにハンドボールのワールドカップについても言及していただいた。みなで一本締め。その後も、片付けしながら、残れる人は残って話の続き。貴重なひとときであった。

23 : 30頃 終了・解散

Ⅲ. 参加者からのコメント（投稿順）

◆安藤裕一 12/22

女子ハンドボール世界選手権の興奮が冷めやらぬうちに、熊本から羽田空港経由で駆けつけたため途中からの参加となった。齋藤守弘氏の「ラグビーW杯全会場を回った体験」は、日本の各地域のおもてなしの素晴らしさを垣間見ることができ、また各会場の観客向けの救護室とAEDの設置についての報告は（特に自分の職業柄）興味があった。ラグビーW杯の運営で学んだことを2020年東京オリパラに是非引き継いで欲しいと思った。

また文京RSの山田研也、渡部博幸、齋藤守弘各氏の語りは、それぞれ若者への熱い思いがこちらにも伝わってきた。クラブ員ならびに指導者が増加する中で指導者をどう育てるかという課題に真摯に取り組む姿は、他のクラブ（競技種目を超えて）も学ぶべきところがあると思った。

久々の月例会参加であったが、あらためて各競技間で子供をシェアしあいながら（奪い合うのではなく！）子供が育つ環境をつくるのが大切であることを認識、とても面白く有意義な夜を過ごすことができた。

おまけに女子ハンドボール世界選手権（2019/11/30-12/15）の感想

決勝のオランダ対スペイン戦は 29-29 の同点で残り 6 秒というところでスペイン選手が、味方にパスを出そうとしたオランダゴールキーパーに反則し、オランダがペナルティスローを獲得。これが決まりタイムアウトという劇的な試合だった*。難しい場面を冷静にジャッジしたレフェリーペア（フランス人女性 2 名）は、大会を終えた今「世界最高のペア」と賞賛されている。

日本はヨーロッパの強豪ルーマニアに最終戦で勝利して過去最高の 10 位になった。（この試合は東京にいたため残念ながらテレビ（J-sport）観戦）

世界の強豪国が本気で戦う大会を観戦することができた幸せな数日間であったが、日本で開かれているのに日本のメディアでほとんど取り上げられなかったことは本当に残念（日本ハンドボール協会にも責任があると言わざるを得ない）

*終了までに 30 秒を切った時点で相手の得点チャンスを拒む悪質なファールには、ペナルティスローが与えられる（ハンドボールでは VAR は採用されていない）

◆山田研也（文京ラグビースクール副校長） 12/23

2013 年 3 月に開校した文京ラグビースクール、開校時は 18 名でスタートしましたが、現在は 269 名(12 月 22 日現在)、7 年間で 15 倍に拡大しました。

やはりワールドカップ効果は大きく、この 3 ヶ月間だけでも会員数は 59 名増加しています。先日の体験練習会には、122 名の子供たちが集まりました。

この期待に応えるべく日々奮闘している次第ですが、いくつか問題点も生じてきています。

ひとつは指導体制の問題です。安全に、かつ一人一人に目を配りながら指導するには、コーチ一人当たりの生徒数を少なくする必要があります（特に幼児、低学年）。

この 3 ヶ月、なんとかやりくりをしながら乗り切ってきましたが、限界に達しつつあります。指導体制の量的、質的充実が急務な課題となっています。

もうひとつは、ラグビースクールのあり方に関する問題です。

文京ラグビースクールは、ラグビーを通して子供たちの健全な成長の場を提供することを目指しています。

ラグビーの技術を教え込み、試合で勝つことを目的とはしていません。

しかし、会員数が増えてくると、保護者・コーチのベクトルは様々な方向を持つようになってきます。

いかにして我々の方針を理解してもらうか、しかもそれをトップダウンではなく対話的に深めていくことができるか、これもまた大きな課題となっています。

今回は貴重な機会を与えていただき、どうもありがとうございました。

引き続きよろしくお願いいたします。

◆名方幸彦（NPO法人文京教育トラスト） 12/26

9 月 15 日に小石川植物園で、文京ラグビースクールの秋のイベントを実施しました。その際クイズを 50 個出しましたが、最後のクイズは WC で Japan はベスト 8 まで行けるかが？でした。私が挙げた正解は、「行けない」でした。理由は 50 年代後半からラグビーを見ている私にとって日本ラグビーが世界のトップを破ってベスト 8 まで進むことは夢のまた夢のことでした。そういえばサッカーも 20 世紀中にワールドカップにはでられないと思っていましたが、それも外れました。予測は外れるものですが、深く反省して、One Team を作り上げた関係者に大きな拍手をして敬意を払いたいと思います。

一方、大活躍した結果ラグビーを取り巻く環境も大きく変わりました。文京ラグビースクールでは、年末までに新会員が 70 名を超えるまでになりました。たくさんの人が関心をもちとりわけ子供が自らやってみようという人が多いのが今回の特徴です。隠れていたラグビー好きの潜在需要が日本の活躍で顕在化されたと言うべきかもしれません。しかし同時に課題もでてきました。限られた人のマ

イナーなスポーツだったラグビーがメジャーになることで、違和感を感じることもありましたが、一つは応援です。サッカーでは日本チャチャチャと合唱することが多いですが、ラグビーは一般に集団で声をそろえて唱和しません。それぞれが個別に応援すればよいという考えです。ただ今後そのような人が多くなると自然に新たな応援手法が定着するかもしれません。もう一つは、日本とロシアの初戦を見るために東京スタジアムまで行きましたが、雰囲気がまるで外国でした。大きな西欧人が電車のなかから歌をうたってさわいでいるし、駅を降りたら街頭でビールを飲んで大男が騒いでいました。駅の警備員にきいたらFC東京の観客は1時間前からくるが、ラグビーは3時間ぐらいまえからきてビールをのんで楽しんでいるとのことでした。

いままでのラグビー関係者が培ってきた日本のラグビー文化に海外からのグローバルな視点、そして新たにラグビーファンになった人々の視点が加わりラグビー界が大きくかわるような予感がしています。そのうえで新たなラグビー文化、スポーツ文化が生まれることを期待しています。

◆中塚義実（NPO法人サロン2002理事長） 1/13

忘年会から1ヵ月も過ぎてしまった。ラグビーワールドカップは昨年のできごと、今年はオリンピック・パラリンピックイヤーである。けどせっかくなので、少しばかり振り返っておきたい。

ワールドカップはおもしろい。私自身はFIFAワールドカップの体験しかなかったが、今回ラグビーワールドカップを体験し、同じような雰囲気を感じた。単純にラグビーを愛する人たちが日本に集まってきたすぐに仲間になる。ラグビーで地域が盛り上がり、みながうれしい顔になる。オリンピックでもこういう感覚を味わえるだろうか…。

サッカーとの違いも感じた。ラグビー観戦にやって来る人たちは、サッカーの人たちより明らかに大人な感じがするし安心できる。プレーヤーも、ただのやんちゃなやつらというよりも、自立（自律）した人たちという印象である。その彼らが「ONE TEAM」というから説得力がある。「スポーツの教育的意義」を証明するようで、教師としてはありがたい。もちろん、一人ひとりがおちゃめで、ときに羽目を外すやつらだということも知っている（学生時代からラグビー部とは付き合いが濃かった）。サッカー人とは少し異なるラグビー人の雰囲気が、「にわか」の人たちにも知られるようになったのがうれしい。

そのようなラグビー人が手弁当で取り組んできた文京ラグビースクールの成長も、横でみて知っている。忘年会では、そんな文京RSが、少年スポーツにありがちな悩ましい問題―試合に誰を出場させるのか（誰をベンチに置いておくのか）―に直面していることを聞いた。大会での勝利を目指すことと誰もがプレーできる（ゲームができる）ことをいかに両立させるのか。忘年会ではじめて会った人たちが、こんなピュアなテーマで熱く語り合えるのがおもしろかった。

忘年会の前の週末（12月9日）に、JFAでグラスルーツ推進パートナーのセミナーがあり、私も登壇者の一人として全国の少年指導者と懇談する機会があった。私が登壇したセッションのテーマは「補欠ゼロ」。DUOリーグが掲げてきた理念の一つであり、「引退なし」「歯磨き感覚」とともに大切な思想である。これらを実現するための「ささえる」大切さ、おもしろさをもっとフォーカスしたい。

令和2年も公私ともに、スポーツのあり方を発信し続けたい。

◆斎藤 芳（桜丘中学高等学校体育科） 2/10

ワールドカップにおいては3位決定戦のニュージーランド対ウェールズを東京スタジアムで職場の同僚と生観戦しました。早めにスタジアム入りし軽い食事を済ませウォーミングアップから観戦しました。生でハカを観れて大変良かったです。（ちなみに2009年に日本で行われたU20ラグビーワールドカップ決勝ニュージーランド対イングランドも秩父宮で観戦しました。）同僚は初めてのラグビー観戦がこの3位決定戦ということで大変感動しており、トップリーグも見に行こうかと言っていました。ちなみにその同僚は柔道を大学までやっていた人物です。

自分はサッカー専門ですが小学生の時にテレビで見た早明戦で当時の明治大学の北島監督の「前へ！」で一気に明治大学ラグビーのファンになり、また伝説のドラマ「スクールウォーズ」の影響でラグビーを本格的にやりたかった少年でした。昼休みに嫌がる友達を何人か連れて1対1や2対2のスクラムやランパスをするほどラグビー好きでした。しかし千葉県北西部出身なので土地柄ラグビーより圧倒的にサッカーの地域なので自然とサッカーに流れていきました。そういったこともあり、大学生のころから秩父宮や国立競技場で大学ラグビーを中心に日本代表戦などを観戦してきました。海外でのサッカー観戦も多くしてきましたので、今回確認したかったのがサッカーとラグビーでのスタジアムの雰囲気の違いでした。3位決定戦は、日本開催ということもあったと思いますが、お客さんの雰囲気も和やかでした。いつか海外でラグビーを観て雰囲気の違いを感じたいと思いました。

残念だったのが、前回のイングランド大会はほぼ球技専用競技場だったと思いますが、東京スタジアム、横浜、熊本、大分など陸上競技場付きの競技場が多く、秩父宮で多く観戦してきた身としては、もし陸上競技場がなければ更に迫力を感じられよかったと思いました。

また忘年会の中で2点の大きな驚きがありました。1つ目は、ラグビーはもともと交流戦の意味合いがふくまれ「歯抜け」の対戦日程でもよいとのことのお話がありました。関東大学ラグビーに「対抗戦グループ」と「リーグ戦グループ」に分かれてリーグ戦を行っていますが、小さいころからなぜ1つではないのか疑問でしたが少し理由がわかった気がしました。

もう1つは、文京ラグビースクールが、ある大会において「勝つ」と「全員出場」の選択を迫られたときにコーチ陣のミーティングで意見が分かれたとのことでしたが、自分がプレー、指導してきたサッカーでは、「大会においては」勝つための選手選考が第一で、そこで試合に出れなければ練習試合や親善試合で出れなかった選手に出番を与えるなどといった考え方をするチームの方が多いような気がします。少年サッカーでは「スクール」と「チーム活動」というようにクラスを分けて活動しているクラブが多いような気がします。留学先のドイツでは小さい時から移籍が盛んで、選手は技術・志向に合わせたリーグに移籍し、そこで試合に出ながら経験を積み年齢を重ねていき、生涯サッカーを楽しむ文化ができている。日本では現状ドイツのような移籍システムは難しいですが、いつの日か、どのスポーツにおいても趣味志向の選手と競技志向の選手が共存し、どちらもスポーツを楽しむより良い「日本スポーツ文化」ができればよいと感じました。

2020年もよろしくお願い致します。

以上